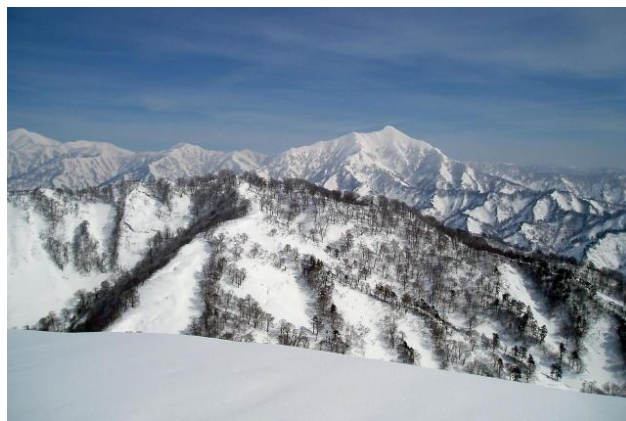


白太郎山・百石山山行記録



白太郎山頂



朝日連峰祝瓶山

目的地	白太郎山かんじきトレッキング：小国町徳網 標高 1002.8m	期 日	平成19年2月17日(土)
山人	主催：小国山岳会（計22名）／笠原単独参加	特 記	K女史の誘いに乗る。

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
<17日> 与板発	5:55	曇	中条まで高速道。R113 小国駅手前を左折して荒川の上流に向かって17km北上する。集合場所の関邸に 8:20 頃到着。予めパッキングしておいた少ザックから中ザックに変えて 350 缶ビール 15 本の荷揚げをまかす。
歩き出し 標高約 330m	9:10 発	晴	カンジキを履く。関邸裏手の雑木の雪急登から始まる。先頭は新雪膝下のラッセル。すぐに汗が出てくる。雨具歩行者が途中で上衣を脱ぐ。
ラッセル先頭	9:40 頃	〃	一度杉林を経て、広葉樹林帯となる。しばらくの間先頭を努める。先週の浅草岳の雪に比べれば雪は軽い。晴渡り歩行は快適だ。
立ち休み	10:20	〃	井上・本間両氏と缶ビール 1 本を回し飲む。笹団子を食べる。
〃	11:10	〃	広尾根で休憩。スキー上山の一人が遅れている。笹団子もう 1 個。
白太郎山	11:50	〃	広い山頂。祝瓶山の白い鋭鋒が目に入る。北に向かって朝日連峰が広がる。雪のテーブルに持ち寄りの酒やご馳走が並び、熊鍋が出来た。初めて食べる熊の肉は弾力があってなかなか噛み切れない。弥輔さんが雪のテーブルの上に刺身を並べる。そしてセトモノ井で本格ラーメンが出てきたのにはビックリであった。
下山開始	2:55	〃	日差しを受け無風。絶好の日和だ。たっぷり飲み、食べ、しゃべり、大宴会を終える。東斜面に飛び降りて雪遊びをする。カンジキで下山。壺足者も居たがやはり時々ぬかる。山頂で飲み切れ無かったビールがザックの中に 8 本、それを途中で再乾杯。シリセード、寝転び、雪山満喫。上山時も話し声が絶えなかったが、下山時はそれに嬌声加わる。
歩行終了	4:40	〃	関邸の 2 階の薪ストーブを囲んで皆で慰労大宴会。
就 寝	?	〃	小国山岳会のうち二人が宴会に参加せず帰る。宴会途中で弥輔夫妻が帰り、終盤、新潟・加藤グループ 7 人が帰って行った。翌日山行を横山氏にお願いする。寝袋に包まって寝る。後半は記憶が薄い。

白太郎山に夏道は無い。この時季にのみ登ることが出来、朝日連峰の好展望の山だ。

一昨年、昨年と飯豊石転び沢の春山合同訓練に参加した。それをきっかけに小国山岳会と繋がりが出来た。12月3日の二王子岳で話が出た「鍋っこ登山」に参加した。数人を除いて顔見知りの方々との楽しい山行となった。一方世話になった関邸の主は茨城県の出身とのこと。ここに十数年前から住み着き、マタギとして山とともに暮らし、夏は梅花皮小屋の管理人を努めている。TVは無い、新聞は要らない。我々とは次元の異なる生活をされておられる。

目的地	百石山：小国町伊佐領 標高 598.8m	期 日	平成19年2月18日(日)
山人	笠原正雄、横山利夫 (小国山岳会)	特 記	白太郎山の翌日に登る。

伊 佐 領 駅	9:15	小雪	5時過ぎに目が覚め、朝帰る川口女史を見送る。井上氏は朝食を摂らずに帰って行った。朝食に関さんが炊いたご飯を残った6人で頂く。横山氏の車について行き、米坂線伊佐領駅前に駐車、雨具で歩き出し。駅の標高 207m。約 250m車道を東に進み民家裏手から入山。横山氏は和カンジキ、俺はスノーシューを履く。兎狙いだろうか、針金で輪を作った罠が仕掛けてある。
上 山 へ		〃	雑木傾斜地を掻き上がり広葉樹林帯を登る。急勾配の杉植林地に入ると昨夜の酒の汗がドット出てくる。雨具上衣を脱ぐ、杉を抜けて再び広葉樹帯となる。動物の足跡がいくつかあった。
h400m 細尾根	10:15	曇	尾根突端の小広場に上がり立ち休み。キジ。東面に雪庇が出来た細尾根を進む。尾根が広がってきて、傾斜が増し、左右にルートを選びながら高度を上げる。四つん這いで登る所もあった。行く手にピークが望め、直登はきついので左に回り込みながら山頂へ出る。
百 石 山 頂	10:55~12:00	〃	ガスは動いているが、展望は無い。無風で寒さは感じなかった。横山氏がスコップで雪ベンチを作ってくれ、コーヒーを沸かす。昨夜の宿の関英俊さんのことや、近々海外の未踏峰を目指すという吉田岳さんの話などを聞き、おにぎりを2個食べる。
歩 行 終 了	1:00	〃	今度は急傾斜を直に降りる。スノーシューを横にしても制動が利かない。途中、壺足に変える。灌木上の雪が深くぬかり、降りにくい。時々尻を滑らして下る。傾斜が緩んだ所で再びスノーシューを履く。上山時の細尾根まで戻らず、右方向に下りる。杉林に入り、伊佐領小学校に出る。車道に上り、すぐ前の店でタバコを買う。
伊 佐 領 駅		〃	1分程歩いて駅前に戻る。横山氏に礼を述べ別れる。
帰 路	5:30 帰宅	〃	小国市街に入り、看板に従い「ゆーゆ」へ行ったが、温泉施設は営業を中止していた。関川村まで進み「ゆーむ」で入浴。R290 から新発田に行き、高速で三条まで。WESTに寄り、スコップと皮手袋を購入。

横山氏とは、合同訓練及び12月の二王子岳で一緒だった。折角小国に泊まるのだから、翌日は川入へ行き、西俣ノ峰の入山口でも確認しようかとも思っていた。前夜の慰労宴会の際、この日の入山を予定していたと云う彼との話がまとまって同行となった。この山も登山道は無い。歩行時間は長くはないものなかなか登りでのある山だ。晴れば、南に飯豊連峰が望めるとのことだが、全く見えなかった。ちなみにR113に沿った山では一番高いと聞く。



山頂間近



百石山頂にて